山口県文書館蔵「近藤芳樹日記」翻刻（九）

久保田　啓一
蔵本　朋依

凡例

一　漢字は、常用漢字に含まれるものはそれを用い、他は正字体とした。ただし、「并」のように、組版の都合を考慮して俗字を使用した場合がある。また、明らかな誤字は訂正した。

一　平仮名・片仮名については、書き分けに意味があると考えられるため、底本の表記に従うのを原則とした。平仮名の文脈中にあらわれる「ニ」「ハ」「ミ」もそのままとした。なお、合字の「ヿ」やメなどは、それぞれ「コト」「シテ」などに開いた。

一　適宜句読点・濁点・半濁点・中黒を補った。

一　漢文の訓点は、明らかな誤りを正した以外は底本のままとし、新たに補うことはしなかった。

一　踊り字は、〻を「々」とした他は底本通りとした。

一　校訂者による注記は、〈表紙〉のように〈　〉で示し、底本に使用される（　）とは区別した。

一　欄外や行間の補記、割注の類は、〈欄外〉〔〇〇〇〇〕・〈傍注〉〔〇〇〇〇〕・〈割注〉〔〇〇〇〇〕のように〔　〕で括り、底本に使用される「　」とは区別した。

一　底本の行移りには従わず、内容に応じて適宜改行した。また、改頁を示すことはしなかった。

一　闕字・台頭・平出の類は無視した。

一　日付・天候の記述から本文に移る形式は冊によって異なり、統一がとられていないが、日付・天候を一字下げで書き始め、本文を続ける形式に統一した。

一　通読と検索の便を考え、各冊の最初と最後には〈第〇冊　表紙〉〈以上　第〇冊〉と校訂者注記を掲げ、各月の初めには〈文政九年〉のように該当年を注記した。

一　全冊の本文掲載終了後、索引を付す予定である。

〈承前〉

〈扉〉

嘉永五子閏二月

西遊雑記

此冊筆者不詳（佐甲氏カ）

〈本文〉

秋よしにてよめる

秋よしやことしの秋のゆたけさも先あらはるゝ麦のはしり穂
　下ノ関白石資陽が母、八十になりぬときゝて
めぐり来し八十の浦わのうちなくて千世もかさねよ鶴の毛衣
　白石の号、橘園といふを
かくのミの身にあふのミか時じくに言葉の花の匂ふ此宿
　春月といふことを
谷川の清きながれにすミながらひとりにごれる春の夜の月
　都府楼の跡にて雨ふりけれバ
むら雨もこゝろ有てやそゝぐらんふりにし跡をしのぶ袂に
　うみ宮にて
楠の広きミかげをかしこみて二葉なりけん昔をぞおもふ
　三月三日に
やつれこしひなの旅ぢハけふといへど桃の花をもかざゝざりけり
旅衣袖ぬらしけり春雨のふる郷遠くなるにつけても

閏二月〈嘉永五年〉廿一日。晴。
銀拾匁請。
　内
弐百四文　萩より賃銭弐人前
三拾弐文　心付
百拾文　明木より同
弐拾文　心付
七拾弐文　絵堂より同　十弐文心付
四拾弐文　秋吉より同
八十文　河原より同　三十弐文心付
廿二日。晴。
百拾弐文　四郎原より同
又拾匁請。
　内
三拾弐文　よし田より賃銭
四拾八文　吉田弁当菜代
拾五文　草り壱足
拾三文　玉子一ツ
六拾四文　小月より賃せん
六拾四文　長府より関迄
四拾八文　心付として人足へ
百五拾文　阿弥陀寺より船賃
廿三日。晴。
廿四日。晴。
廿五日。晴。
廿六日。晴。
〈頭欄〉〔〇〕七拾五文　ゆきひら一
〈割書〉〔此分、先生より出ル〕〈括弧でくくり割書〉〔国札四匁　大裏へ渡りせん、同壱匁　大りニて茶代〕
百四文　大りより小倉迄賃せん
百六十文　小倉より黒崎迄同
弐百廿五文　白砂糖半斤
廿五文　大倉ニて茶代
五拾文　あんま
三十六文　人足へ心付
廿七日。晴。
弐朱壱本請。内
百弐拾六文　黒崎より木屋瀬迄賃せん
四百文　宿料
四拾文　宿へ茶代
弐十四文　人足え心付
十文　茶代
十文　草り

十五文　わたりせん
十五文　同
百五拾八文　木屋瀬より賃せん
弐百文　〈括弧でくくり割書〉〔人足へ心付、古
文へ廻り候ニ付〕
六拾八文　赤間より畔町迄賃せん
三十弐文　人足へ心付
八文　草り
廿八日。晴。
金弐朱請之。内
四百文　宿料
三十弐文　茶代
六十四文　畔町より青柳迄賃銭
弐十四文　同心付ケ
百廿四文　青柳より箱崎迄賃銭
三十弐文　同心付ケ
八文　草り
十弐文　香椎ニテ茶代
十文　名島より渡りせん
八文　草り壱足
六十四文　玉子八
四十文　茶代
十五文　酒代
弐十文　箱崎より博多迄賃銭
八文　菓子
百六十文　ねりようかん
十弐文　ざぼん
廿九日。晴曇。夜に入りて少し雨ふる。
四り八文（ママ）　髪ゆひちん

十三文　草り
九文　同
六十文　あんま
三月〈嘉永五年〉一日。晴。
金弐朱入、八百三十二文ニ成。
内
廿四文　う美ニ而弁当菜
十文　同茶代
廿四文　草り二足
十文　草り
五拾文　小づかひ
二日。昼後雨。
金壱歩、織之助出ス。
壱貫文　博多宿料二夜
百文　茶代
十八文　博多より福岡迄賃銭
五拾二文　福岡より姪浜迄同
四拾四文　姪浜より今宿迄同
六十文　今宿ニて昼飯
廿四文　草り
五拾八文　今宿より前原迄賃銭
十四文　わらぢ弐足
六十六文　前原より深江迄賃銭
十六文　人足ニ心付ケ
三日。昼後晴。
弐朱請之、八百三十文ニ成。
内
百廿六文　深江より浜崎迄賃銭

三十文　同人足へ心付ケ
七拾五文　浜崎ニ而昼飯茶代
百廿四文　浜崎より徳末迄賃銭
弐拾文　同人足へ心付ケ
弐十文　ざぼん
五百文　深江ニて宿料
廿四文　松浦川わたりせん四人分
十五文　わたりせん
九文　わらぢ
四日。晴。
金弐朱請之、八百四十文ニ相成。
内
百三拾弐文　徳末より大川野迄賃銭
四百文　徳末宿料
百文　茶代
十文　わらぢ
弐百四拾六文　大川野より塚崎迄賃銭
廿文　本部茶代
三拾六文　川古昼飯菜代
四拾八文　髪ゆひちん
三拾弐文　大川野人足へ心付ケ
五拾文　あんま
廿文　湯せん
五日。時々風雨。
金弐朱請之、八百三十文ニ相成。
内
四百八拾文　楢崎宿料
百九拾八文　楢崎より嬉野迄賃銭
廿四文　人足へ心付ケ
百九拾文　嬉野より彼杵迄賃銭
弐拾文　人足へ心付ケ
四拾八文　嬉野ニ而湯銭
百文　嬉野昼飯茶代
又金弐朱請之、八百三十文ニ相成。
六日。晴。
四百文　彼杵宿料
百文　茶代
廿四文　草り二足
金壱歩、壱貫六百六拾四文也。
内
壱貫弐百三拾弐文　渡し賃
五拾文　時津ニて菜代
廿四文　茶代
金弐朱、八百三十文也。
内
四拾文　茶代
百四拾四文　時津より長崎迄賃銭
五拾文　人足へ心付ケ
弐百文　長崎ニテ菓子代
四拾八文　あんま
七日。晴。
弐百廿四文　裏付草り弐足
八日。晴。
四十八文　髪ゆひちん
九日。晴。
十日。晴。タヨリ雨フル。
十一日。雨。道ニテ山口ノ人ニアフ。ヨキ便リナレバ、父ノモト、
其外三四人へ書状ヲツカハス。

六十四文　髪ゆひちん
十二日。雨。今晩御屋敷へ移ル。
壱貫五百文　俵屋へ宿料二人三日分
金壱歩請之、壱〆六百六拾文ニ相成。
十三日。晴。
百五拾文　両掛吉村え持越候付日雇賃
三十弐文　菓子代
十四日。晴。
十五日。雨。
金弐朱入、丁銭ニシテ八百二文ニ相成。
内
五百三拾文　関より莚包一箇運賃
百八文　油代
四十八文　髪ゆひちん
十六日。雷風雨。
十七日。雨。
十八日。曇。
十六文　風呂せん
四十八文　髪ゆひせん
十九日。晴。
廿日。夕方より雨。
廿一日。雨。
八文　風呂せん
廿四文　髪ゆひ
廿二日。晴。
廿三日。風雨はげし。
八もん　風呂せん
廿四文　髪ゆひせん
廿四日。雨。
八もん　風呂せん
廿四文　髪ゆひ
廿五日。雨。
廿六日。晴。
廿七日。曇。
十六文　風呂銭
四十八文　髪ゆひ
廿八日。雨。
弐朱入、八百五拾文。
内
七百文　印肉入一
廿九日。晴。
卅日。晴。
金弐歩、吉村へ。
四月〈嘉永五年〉朔日。晴。
十六文　風呂せん
四十八文　髪ゆひせん
十六文　草履なほし代
二日。小雨。
三日。小雨。
金弐朱、八百十文。
内
三百六十文　白足袋十半壱足
四日。晴。
十六文　風呂せん
四十八文　髪結せん
五拾八文　油代
五日。晴。

壱歩弐朱ト四百文〈傍記〉〔此分織之助出ス〕　〈割書〉〔こんろ一、朱丹の箱一〕
壱歩　茶院五丹三ツ代
三十六人(ママ)　らうそく
六日。晴。
七日。晴。
百文　灸すゑ
八日。時々雨。
十六文　風呂せん
四十八文　髪ゆひちん
六十四文　菓子箱二ツ、萩へ唐人菓子をおくるとて
九日。風雨。
十日。晴。
十一日。晴。
十六文　風呂せん
四十八文　髪ゆひちん
十二日。晴。
金弐朱入、八百五十文也。
弐百卅六人(ママ)　唐焼行平三ツ組
三十弐文　両掛金具
十三日。風雨。
十四日。晴。
十六文　風呂銭
四十八文　髪ゆひちん
十五日。晴。
百文　人馬帳面
三百文　日見迄賃銭心付共
弐百文　吉村下人え心付
金弐朱、織之助出ス。

三百廿文　油紙弐枚
八拾文　七島壱枚
弐百拾六文　はじめ二日分夜具代
百文　日雇賃
三十弐文　草り弐足
廿六文　日見より矢上迄賃銭
十八文　人足へ酒代
百廿文　矢上より諫早迄賃銭
廿四文　人足へ心付
十弐文　矢上茶代
金壱歩受取。
此銭、丁銭壱貫六百六拾文、此諫早よりハすべて丁百也。
壱貫弐百拾文　佐賀へ舟ちん、両掛共、但壱貫前五百五
文、両掛弐百文
四百文　諫早船宿京都屋へ茶代其外
百文　ふとん代
廿文　船頭へ酒代
十六日。晴。
金弐朱、丁銭八百四拾文也。
百六拾文　佐嘉台長町武富迄人夫雇賃
百廿文　本庄船上り、京都ニて朝飯仕舞
十七日。晴。
五拾文　たばこ代
十八日。晴。
十九日。曇。
廿日。小雨。
八拾文　紫檀箱金具直し代
廿一日。小雨。
廿二日。小雨。

廿三日。晴天。
廿四日。
廿五日。
廿六日。
　三十文　きせる入袋直し代
廿七日。雨。
廿八日。晴。
廿九日。晴、昼時々ふる。今日佐賀出立。
　百弐十文　久留米ニて昼飯仕舞
　弐（ママ）り四文　水天宮同寺御初穂
　三百廿六文　高良山其外所々小づかひ
卅日。晴。

五月〈嘉永五年〉朔日。雨。
　弐十文　鐘ヶ江わたしせん
　十八文　かし代
二日。晴。
　六十もん　織之助柳川行わたし賃、其外小遣ひ
三日。雨。
　金弐朱入、八百四拾文ニ相成。
　弐百五十文　諸富より柳川迄人足やとひ
四日。雨。
　六十四文　髪ゆひ二人分
五日。晴。
六日。雨。
七日。小雨。
　六十四文　髪ゆひちん
八日。晴。
九日。晴。
廿四文　柳川ノ人足ニ酒代
六十四文　瀬高より三池迄賃銭
十六文　同心付ケ
四十八文　三池より鹿本迄同
弐拾文　茶代
四十八文　鹿本より高瀬迄賃銭
十六文　茶代
十日。晴。
　金弐朱、八百五十文ニ相成。
　四百弐十文　高瀬ニ而宿料
　四十八文　高瀬より植木迄賃銭
　三十五文　草履壱足
　四十八文　植木より熊本迄賃銭
　百六十文　植木ニ而茶代
　十六文　人足え心付
　三十弐文　髪結ちん
十一日。曇時々雨。
十二日。
十三日。晴。
十四日。晴。
　入　金壱歩、壱貫七百文ニ相成。
　　肥後札十三匁五分、〇九百四十五文ニ成。
　　内
　壱貫七百五十文　肥後宿料二人四日分
　三十五文　黒本ゆひ
　三十五文　かうやく代
　四十八文　髪ゆひちん
　七十文　くず
　四百廿文　隈本より大津迄人足やとひ賃銭

四十八文　茶代
十五日。晴。
金弐朱入、八百五十文ニ成。
内
八十三文　大津より内牧迄ちんせん
十六文　心付ケ
十六文　茶代
十六文　茶代
四百九拾文　大津宿料二人分
三拾弐文　内牧より宮地迄賃銭
十六日。雨。
十七日。晴。
弐十八文　わらぢ弐足
弐百五十文　宮地より菅生迄賃銭、心付ケ共ニ
七十文　昼飯菜代

〈扉〉

付紙
十ノ二

西遊漫録　下

〈本文〉

西遊漫録　下　嘉永五

上巻四月〈嘉永五年〉十八日ノツヾキ。
今夜、紀州藩ノ岩崎時十郎ト云人、長崎ニマカルヨシニテコノ所ニトマレルガ、尋ネ来レリ。長崎ニテ御用達長岡文治郎、ソノコトヲカネテ云テ、大カタ佐賀ニテ逢玉フヤウニ下ル来(ママ)ルベシトイヘリ。果シテ逢テ諸平ガ消息ヲ聞ス。コレハコノホドハ病気モヨクナレリトゾ。マタ近世名所和歌集トテ、当今ノ人ノアラハセル書ヲミセタリ。コレニオノレガ序ヲアツラヘヌ。ソノ他雅談ドモシテワカレヌ。

十九日。曇レリ。夜雨。野中元右エ門ガ亭ニ午時後ニマカル。今日コノ家ニツドヘル人々、枝吉平左エ門・南里伝之介・古川与市・今泉伝兵衛・山崎与五郎・原五郎左エ門。コレラノ人々ト夜ニ入マデモノカタラヒツ。今日モ酒肴トリ〳〵ニテ、イトタノシキ遊ビナリキ。コヨヒハ野中ノ別宅ニヤドル。

廿日。今日モクモリテヲリ〳〵雨フル。重松勘次来ル。コレハ宮城繍介ト名ノリテ国ニ久シク来リ居シ人ナリ。今ハハル野町ト云所ニテ寺子屋ヲシテクラスヨシ也。ソノ後、古川与市・枝吉平左エ門・今泉伝兵衛・同隼太来ル。マタ野口丈次郎〈割書〉〔信親〕トイフ町人モ来レリ。題ヲ探リテ歌ヲヨム。

夏衣

さらしゐの水の清さもおりそへて涼しきなり〈傍記〉〔らカ〕のあさ衣哉

卯の花の色に染てや着てゐましほとゝぎすまつよるの衣ハ

草場瑳介、サイツ頃ヨリ所労のヨシニテ、屋敷ニ訪ントシツレドモコトワレリ。マタ藩制モアリテ、彼方ニ行コトハ禁ゼラレタルニ、今日菓子一箱ヲモチテ来ラレタリ。夜モスガラ雅談シテカヘラレヌ。矍鑠タル翁也。

草場氏ニヨミテオクル歌

なきまよふ雲路をしへようぐひすのふるすの中の子にあらずともコレハ、コノ人老儒ニテ藩ノ師範ナルガウヘニ、オノレコタビツクシニ下ルコトヲ免サレタルモ、モハラコノ人ニツキテ経義ナドノタド〳〵シキコトヲモトヒアキラメ、事ニヨリテハ講道館ニテシバシ稽古ヲモセンノ志アリテ、ソノ由原五郎左エ門ヨリ草場氏ニ云入レツレド

モ、数ナラヌ名ハヤク筑紫ニ聞エ居タリシユエニ、ミナオノレヲタフトミアガメテ、サル老儒ノ草場先生サヘイタクケイメイシテ、サラニ物学バントスルコトハ出来ヌヤウニカマヘ物セラルヽニツキテ、センカタナクタヾ何クレト物ガタリドモシテ、ヲリ〳〵ニ書籍ノウヘニ引オトシ、コトトフノミニ日ヲクラセリ。夜フケテ武富ニカヘル。

廿一日。曇テヲリ〳〵フル。朝ノホド、源氏ノ桐壷ヲ講ズ。町人（マヽ）ト今泉隼太ト来ル。講畢テ後、原五郎左エ門来ル。ソノ後マタ草場老翁来ラレタリ。今日モ何クレト物ガタリシテ、午時バカリヨリ夜ニ入テ亥時バカリニカヘラレヌ。

廿二日。曇ヲリ〳〵雨フル。野中氏ニ薬種ノコトヲキク。コノ人モ長崎ニテ入札スル人ナリ。彼方ノ世話人ニ一〆目ニ六十目口銭ヲツカハス。ソノ六十目ノ内ヨリ、取越シ荷作リ等ノ日雇賃、会所納、〆三歩銀等ヲ出ス。サテソノ荷物イカホドニテモ、上方ヘ上セ、国ヘ取コスコト自由也。但、上ヘコレホド上ス、国ヘコレホド取コスト云コト、長崎ニテ決セネバナラズ。イカニトイフニ、一応国ニ取コシタル物ハ、マタ上ヘノボスコトハナラヌ也。コレハ手板ガ上セ手板ト国手板違フユエ也。野中ナドハ上セ手板ト九州マハリノ手板ト云ニスルトゾ。シカレバ御国ニテモ防石長ノ手板ハ出来ルナルベシ。マタ佐賀ニハ薬種ヤ四軒アレドモ、入札スルハ野中バカリ也。筑前ニハ一軒モナシ。野中ヨリオクルナリ。肥後ハ長崎ノ原田茂吉ト云モノヘ御頼ニテ彼方ニテスル也。原田茂吉ハ長門ヤトイフ。オノレモ知タル人也。ヲギ・蓮池・鹿島ヲ三家トス。コノ内鹿島ハ小身ニ付、七年ノ間参勤断ニテ、今佐賀住居也。コレハ現米八千石ノ地ヲ領シテ居ラル。公義ノ所ハ二万四千石ナレド、仕組ニ付、コノ頃ハ家ナシ同様ト也。

〈以下、四月廿一日・廿二日付近に挿入された紙片の記載〉

〈割書〉〔嘉永五〕十一月六日　敬身堂講談出入人数付立

講師　近藤晋一郎

聴衆　足軽以下　五拾人

百姓町人　拾弐人

右二廉、合六拾弐人

〈以上〉

廿三日。晴。ヨベ野中ニヤドル。今朝（マヽ）来リテ、学館ヲミスベキ由ニテアナイス。同伴ニテマヰル。草場博士出向ヒ、諸役人ミナ出会、ソコ爰アナイス。サテ後、余ヲ三十九畳ノ坐敷ニ誘ヒ、上坐ニスウ。後ロニ刀懸ヲ置、余ガ刀ヲトリテコレニカク。サテ後茶ヲ出ス。役人出テ、館内ニテ麁酒晋上スベキヨシ申付タレドモ、混雑ニ付、近辺ノ儒、寺ノ書院ヲ借オキタリ、カナタヘ館中ノ者ドモヽ参リ候間、コレヨリ直ニ御出可被成トノ事ニテ、草場其外一同ニマカリヌ。館内ハ別ニ図ヲ出セリ。学生凡四百人、ソノ内百人バカリ、食料上ヨリ御賄ヒ、一日白米五合ニ菜料十二文ナリ。五十人バカリ役付ノ者、コレモ同ヤウ也。但会計ノ事、台所ノコトナドモ、大氐学生ノ内ヨリシテ、館外ヨリ役人ヲエラビ入ラルヽコトナシ。凡百五十人バカリハ半食ヲ玉フ〈割書〉〔本食ニシテ七十五人タケ也〕。本食書生百人、半食生百五十人、以上二百五十人、残リ百五十人位ハ食料家ヨリ送ル也。毎月食料取立アリ。所々之壁に、食料何日切ニ差出スベキヨシ書付アリ。コノ外ハ館外ヨリ日々通フナリ。マタ別ニ拡充局アリ。コレハ、家持或ハ老人ナドニテ、別段ニ館内ニ通ヒ、経義ヲ拡充スル也。出精ノ者トテモ、節季ニ賜物ナドハサノミナシ。タヾ或ハ書物、紙類、或ハ武芸ナレバヤリシナヘ皮ナドヲ玉フ也。但右四百人ヲ内生トス。小児ノ書物ヲ見ニ通フ小学寮ヲ外生トス。拡充トアハセテ三局ナリ。

給暇、月ニ七日ナリ。ツヾケテモ玉ヒ、分テモ玉フ也。侯ノ学館ニ臨ミテ講釈ヲキヽ武ヲ試ミ玉フハ、ミナ御坐敷ニテノコトニテ、講堂ニ臨ミ玉フナシ。文武ノ諸芸ヨリ役人ヲ選ビ玉フコトハ、或ハ剣□〈字形不明の文字に傍記〉〔功力〕ニヨリ、或ハ才ニヨリ、一定ナラズ。

サテ誘ハレテ行タル寺ハ、浄家ニテ称念寺ト云。酒肴種々ニテ昼飯

ヲ出セリ。夜ニ入テ温純(マヽ)ヲ出セリ。夜モ酒肴トリ〳〵也。学館ノ台所役人、手子・小使ノ如キ者ヲ率ヒ来リ饗応セリ。出席ノ人々ハ、草場瑳介・三好左馬之進・福島文蔵・関半蔵・犬塚文十郎・野口広一郎・横尾文吾・光増治平ナリ。ヤヽ後ニ原五郎左エ門モタヅネ来レリ。夜ニ入テ亥ノ時バカリニ武富ニカヘリヌ。

草場云、長崎今ノ蘭人ハ昔之蘭人ニアラズ。サルハサイツ年、彼地乱ニテジヤカタラモ合戦ノ時、モトノ蘭人ハウチマケテ、今ハ他ヨリ取タリ。ソノ際六七年舟来ラズ。加飛丹〈傍記〉〔ヘンチレキトヲル〕滞留シテ六七年目ニ来リ、交代シテサキノ加飛丹ハカヘリ、又後ヲ来レルヲ見ルニ、ヤヽムカシニカハレリ。コレ蘭ノ変ニヨレリ。サルユエニ今ノ蘭人ハ古ノ蘭人ニアラズ。

廿四日。晴。武富ニテ朝餉タウベテ野中ニ行テ源氏ヲヨム。野口信親云、昨年ハ城ノ二丸ノ西ノ側ニ楠アリ。コレヲ石火矢ノ台ニセントテ切倒シ、木引ニヒカスルニ、一向キレズ。コレニ依テ打ワリタルニ、地ヨリ一弓半バカリ上リテ、石ノ薬師ノ、高三尺五六寸ナルヲ木身ヨリ得タリ。貫乾坤トイフ字ホリツケタリ。按ニ、ムカシ樹蔭ニ石像ヲ建タルヲ、木ノ大ニナレルマヽニ巻コミテ木身中ニ入リタルカ。木ノ盛長スルニ随ヒ、一弓半モ高キ所ニナレルナルベシ。身ニ巻キコムヲ人々ハカナラズ仏ヲ別ニウツスベケレド、乱世ニテ人モスマヌ世ニカクナレルナルベシ。

田中虎六来。炮術セヽリ也。枝吉平左エ門ハ五十国余遊歴セシ人ナリ。六年ノ間他国ニアリ。四年マヘニ帰国セリ。今ハ藩中ノ律ノコトヲ改ムルコトヲ命ゼラレタリ。コノ者云、米沢ハ上ヨリ下ヲ恵レ、下ヨリ上ヲ仰グ。上下和睦、何トナクウチトケタル国ニテ、和気城内ニミチタリ。信ノ上田コレモヨシ。金沢ハ古今ノ変ナキガ美事也。マタ陪臣ナレド伊達安芸ノ領セル陸奥ノワクヤヨク治リタリ。仙台ノ士ノ多キニオドロケリ。大番三千六百人、新番三千六百人トイヘリ。コヨヒマタ草場翁トハル。

廿五日。晴。蓮池老侯ノアヒ玉ベキヨシヲ草場翁マデ云来レリトテ、ケサツトメテ門生ヲツカハサレタリ。コレニ依テ髪ユヒテ出タツ。一里バカリノ所也。蓮池ニテ石川勘兵衛ト云者ノ許ニ到ル。トバカリアリテ、大木梅久トイフ、六十バカリナル剃髪シタル人来リテ、ホドナク相対セラルベシ、隠居ノカタヘモイザナハマホシケレド、他国ノ人ユヱニソノコトハムツカシケレバ、郊外ニ竜津寺トイフ蘖(ママ)派ノ寺アリ、コレニテ相対致サルベシト云テカヘリヌ。コレモ士ノ隠居ニテ老侯ニ陪従スル人ナリトゾ。コノ寺ハムカシ大典禅師トテ学匠ノスメル寺ナリ。マタ売茶翁モコノ寺ニテ剃髪セラレタリトゾ。ヤヤアリテ、草場老翁、マタ正木半左(ママ)エ門ト云人来ル。三人トモナヒテ竜津寺ニマウヅ。侯コゾヨリ入道シテオハセリ。タイメン玉ハリテ後、クサ々ノ物語ドモセサセ玉フ。江戸ニキタヒシ(ママ)ホド、歌ノ道ニモオリタヽセ玉ヒタリトオモハレテ、イトクハシキコトドモカタリ玉フ。歌ヨミテ奉ル。

ほとゝぎすこゑもをしまじこゝならでまたなきぬべき蔭しなければバ

ほとゝぎすなきて仰ぐも高き木にそゞろがましき音や聞えまし

入道殿ノ御カヘシ

（マヽ）

儒臣大野五郎左エ門、詩ヲツクリテオクリケレバ、

色あせし旅の衣を君こそハからくれなゐに染てきせけん

サテ後ニ探題ニテヨム。

盧橘　　縈綯

まとゐしてむかしかたらふ折しもあれ花たち花も香にゝほふなり

鵜川　　政春

ミし冬のひをもるかげやうぢ川の鵜のかゞり火と夏はもゆらん

河蛍　　種徳

とぶ蛍おもひもえつゝ山川の波にうつろふかげぞすゞしき

夕郭公　　正美

心をもなぐさめかねつほとゝぎすしのびながらのゆふぐれのこゑ

浦夕立　　春屋
つり人のミのきるほどもなつの浦や波間はれゆくゆふ立の雨
庭夏中　　入道殿
さミだれのはれ間すくなき庭まがきはらハぬくさぞしげりあひにけり
竹亭夏来　　平一
煩熇如焚又午天　此間試就北窓眠　始知蘇老无虚語　一枕清風値万銭
蚊遣火　　おのれ
かやり火のたき木にもせん庭の松月にさハれる枝をおろして
さミだれにぬれし夏わらゆふかけてたくも露けきやどのかやり火
マタ画師椿屋ヲメシテ席画ヲセサセ玉フ。郭公ノ画ナリ。オノレハ旧詠ヲカケリ。草場博士、
点澹江雲釀雨成　啼飛一鳥亦多情　坐中留得箇遠客　莫作不如帰去声
夜フケテヤドリ〈傍記〉〔品川〕ニカヘリテ、草場ハ老人ナルユエニトヾマラレズ、オノレハカノ正木半右エ門トイフ人ト共ニ府ニカヘリテ武富ニフシヌ。今日アヒタリシ人ノ内ニ　トイフハ、小城ノ茶道ニテ、都ニ久シク居シ人ナリ。何クレトミヤコノコトドモカタラヘリ。
草場翁によみてまから(ママ)せける
なきまよふ雲路をしへよ鶯のふるすの中の子にあす(ママ)とも
廿六日。晴。野中ニテ源氏ヲ講ズ。未時バカリニ、古川松根(ママ)ヲイザナヒテ来レリ。終日雅談。今泉伝兵衛モ来レリ。クレテ後武富ニカヘル。
廿七日。雨。武富文之助ガ先祖(ママ)トイフ人ノヨメル道学百首ヲミル。ソノ内メヅラシキ歌ども少々抜出オケリ。コレヲ文之助ガリカヘストテ、
雲ゐにもひゞきけりとかからやまとかきあハせたる琴のしらべハサルハコノ人、ユエアリテ内裏ヨリクサ〴〵ノタマモノモアリテ、歌ヲモ上リシコトアレバナリ。ソノヨシハ別ニ記セリ。マタ、草場ノ、鵙囀〈傍記〉〔モズノサヘヅリ〕といふ詩経ノ周南召南ヲミクニノ故事ニアハセテ解テ、訓ヲ七五々々ノ詞ニツヾリツケラレタル書ヲミテ、
言の葉ににほふをミれバから人の心の花も種やかハらぬ
廿八日。晴。小倉ノ佐賀ノ御出入ノ町人、伊賀ヤ四郎兵衛と云モノ也。コレヨリ野中元右エ門ヘオクルベシト也。武富ニテ金二両カリテ、長崎袋町伊吹屋ニテ買オケル机ノ代トシテオクル。ハジメ判ヤ利三郎ニ一歩ワタシオケリ。コレニテ四両三分ノ内二両一歩スム。
午時、正木半右エ門ガ亭ニマカル。コノ家ニ草場翁モ来テ馬ノハナムケセラル。申ノ時バカリニ蒲原仲哲ノ亭ニマネカル。大岡武兵衛トテ筒弾〈「弾」字に傍記〉〔カ〕社ノ人モ来レリ。タニナリテ武富ニカヘル。アス立ベキイソギドモシテ、ワカレノ盃トリカハシツヽ何クレトカタラフホド、野中右〈ママ〉エ門、野口丈次郎ト共ニイトマゴヒニ来ル。ソノ外ノ人々ハミナ野中ニテコトワリタリ。
廿九日。晴。
同卅日。晴。

五月〈嘉永五年〉一日。雨。
五月二日。晴。払暁佐賀ヲ出立、荷物ヲバ諸富ナル出店マデオクリクレヨトタノミ置タリ。原ノ町トイフ所ニ重松菅二大鹿ガヰルニ立ヨリタリケルニ、オクリセントテマチムカヘタリ。一里バカリ従ヒ来ヌ。田中ニヲリ〳〵白キ毛ノマジリタル鳥ヲリ。ミナレヌ鳥ナレバ、イカナル鳥ニカトイフニ、コハカチガラストイヒテ他国ニハヰヌトリナリ。トホツミオヤ直茂公朝鮮ノ役ニ、舟ノ帆柱ニ来テカチ〳〵トナキタリケルガ、ハタシテイクサ勝利トナレリ。ソノ後コノ国ニテコレヲカチガラストイフ。トルコト禁ゼラレタリトイフ。〈行間〉〔〇〕
黒船のほかげミえなバかちがらす今もなかなんあハれその鳥
〈欄外〉〔神崎ノ宿ヨリ半道バカリ上リテ往還スヂニ、東妙寺ト云真

言律ノ寺ニ、征西将軍宮ノカヽセ玉ヘル経アリ。法華経也。奥ニ御名アリトゾ。ヱミズシテ過ヌ。今神崎二里バカリ久留米カタニ中津隈ト云所アリ。コヽニ宝満宮アリテ神主岡出雲ト云アリ。コノ社ハ、三代実録貞観十二年甘南備神社トアル、コレナリ。弘仁ノ御宇ニ造殿儀式アリテ、群書類従ニモ入タリ。イトフルキ社ナルヲ、雨ニテヱマウデズナリヌ。〕

六里余来テ筑後川ノツヽミアリ。堤ヲシバラク過テ里ニ出ヌ。豆津トイフ。コノ所ニワタシアリテ、久留米ノ瀬ノ下ト云所ニワタル。コヽニ水天宮ノ社アリ。外ノ鳥居ハ水天宮トカキタリ。内ノ鳥居ニハ尼御前トアリ。馬場サキノ茶店ニテヒルゲヲタウブ。コノ社ノ神主槙和泉守ヲ訪ハントスルニ、門閉タリ。イカナル故ニカト茶店ニトフニ、和泉守モ召トラレテコトカタニアリ。コノ人ノミナラズ、家老ヲハジメ罪人イト多カルヨシナレド、何事トイフソノ故ハ知ラレズ。タヾ塗説ヲキクニ、今ノ殿ノマダ嫡子ニテオハシマストキノコトニテ、世継ノ争ヒニカナタコナタニ荷担シタル者ノアリショシナルガ、コノ比アラハレタルナリトゾ。

コヽノ茶店ヲ立テ、太神宮ノ神主船曳大弐ガ亭ニ佐甲ヲツカハス。コヨヒハコヽニ帰リテヤドリ玉ヘト云ニヨリテ、風呂敷包ヲアヅケ置テ出ヌ。サテ久留米ノ城下ヲ過テ東ノ町ハヅレニ五穀神ノ社アルニマウデヌ。金ノ鳥居ヲ入テ御手洗アリ。橋ヲワタリテ、二ノ銅ノ鳥居、三ノ銅ノ鳥居ヲ入テ、御社ニマウヅ。別当持ナリ。御社ノマヘ左ノカタニ観音堂アリ。コヽヲ出テ東南ノカタヘユキテ、十三木ノ杉ノカゲヲ十五六町スギテ、府中ノ宿ニツク〈割書〉〔コヽマデ久留米ヨリ一里〕。町中ニ高良山ノ一ノ鳥居アリ。ソコナル茶店ニ笠ソノ外ノ調度ヲアヅケテマウヅ。四丁バカリ来テ御手洗ノ池ナリ。石橋カヽレリ。ソノマヘニ政所代ノ屋敷アリ。マウヅレバ左ノ方也。橋ヲワタリテ右ノ方ノ山ニノボリテ、地蔵堂・観音堂等イトウルハシクテアリ。観音堂ノ廊ヨリ下、池ニイタルマデ、サガシキ所一メンノツヽジナリ。坂ヲ下リテ左ノ方ニ高牟礼権現ノ社アリ。コレモウルハシキ社ナリ。コヽマデ一鳥居ヨリ五丁也。ソレヨリヤヽ上リテ七丁位ノ所ニ八葉石ノ碑アリ。ソノマヘニ極楽寺道アリ。コノ寺モ天台ナガラ滅罪寺ナリ。ソノ上九丁ノ所ニ観音堂アリ。ソノ上ニ大神宮、左右ニ天神・八幡ノ社アリ。ソノ上坐主ノ坊アリ。御井寺ト云〈割書〉〔御井郡ニアルユヱ也〕。月光院ト云。コレ本名也。今ハ蓮台院ト云。コレハ日光宮ヨリ御預リノ御称号也。ソノ本坊ノ側ニ大猷院様已来ノ御神霊ヲマツレル所アリ。美麗也。ソレヨリ上御本社アリ。有馬侯ノ御□〈字形不明の文字に傍記〉〔高カ〕治ニテ巴ノ紋ツケリ。御祭ハ九月九日ナリ。

石階ノ下ニ善導寺ヘ下ル道シルベノ石アリ。コヽヨリオリテ追分トイフ所ニ出、ソレヨリ東ヘ三十丁バカリ行テ千光寺ニマウヅ。後ロノ山ニ征西将軍ノ御墓アリ。左右ニ二ツ同ジサマナルガ、少シ前ノカタニアルハソノ御モト人ナルベシ。ナホ少シ下ノカタ左ニ〈割書〉〔マウヅレバ右也〕侍従秀包公ノ墓アリ。オトヽシ二百五十回忌ニテ、吉敷ヨリ代参来レリトゾ。ソコヨリマタアトニカヘリテ、追分ヲスギ、府中ノ茶店ニテアヅケオケル調度ドモトリ、茶菓ニ旅ノツカレヲ慰シ、マタ杉タテル縄手ノ道ヲ久留米ニカヘルニ、ソデノ方ハルカニ聳ヘタル山アリ。コレ筑前ノ竈門ナリトゾ。イニシヘ国ヲワケ玉ヘルコトヲオモフニ、イト正シキ分界ノシヤウ也ケリト、コヽニテ筑前筑後ノカクワカツベキコトワリヲ知リヌ。サテ陸地ヲクレバ肥前ヨリコノ筑後ヲヘダテヽ肥後ヲ置レタルヤウナレド、サニアラズ。肥前ノ西南、島原ノ方ニサシ出テ、カノシラヌ火ノモユル海ヲ肥後ノ国トサシアハセニツヽミテ、筑後ハソノ東ニ川水ト共ニ流レ出タレバ、肥ノ前後ハ島原ノカタヨリ天草ヲカケテサダメタルモノ也ケリトカツ〻知リヌ。サテ久留米城ノチカキ所、カノ水天宮ノワタリナル瀬ノ下ノ船曳ガ許ニカヘリテヤドリヌ。父ヲ（マヽ）ト云、子ヲ大弐トイフ。神明社ノ神主也。コノ神明ハ、コノ国ノ斉衡三年ノ神名帳ニ大石兵男神トミエタリトゾ。

水天宮御守地ニテ、毎月五日ニ十二万位ハ受ル人アリ。江戸毎月二百両位ナリトゾ。

高良社一山ニ千石御除ナリ。坐主ト両神主トノモノ也。但太閤御朱印ノミニテ、今ハ御朱印ニハアラズ。

久留米ノ地名ノコト、斉衡三年ノ神名帳ニ玖留見神トアリ。コレナルベシ。

五月三日。暁ヨリ雨ニナリタレドモ、留ルベキニアラネバ出タチヌ。アルジ大弐オクリ来ル。間道ヲ西ヘ一里来テ往還ニ出ヌ。コヽニテワカレテ、シバラク来テ大善寺村ト云里ノ茶店ニイコフ。コヽニ高良社トテヨキ社アリ。コヽヨリマタ一里バカリ来テ鐘ガ江ノ農人ニ出アヒ、トモナハレテ田畝ノ道ヲ二里バカリモ過テ、鐘ガ江ニ来テ渡シ船ニテワタル。筑後川ノ末ニテイミジキ洪流ナリ。コヽヲ渡リテ諸富ヘノ道ヲトフニ、コノワタリヨリハイミジキマハリ也、アトニカヘリテナホ下ノカタニワタリノアルヲ越シ玉ヘトイヘド、サルイミジキ川水ヲマタ立カヘリワタルベキニモアラネバ、イタク道ヲマハリテ、ヤウヤヽ未ノ時バカリニ諸富ナル武富ガ問屋ニツキヌ。コノ道、久留米ヨリコヽマデスコシノ食物モナク、ヒタブルノ田舎ニテ、イミジク困ジタリ。サレドコノ家ニツキテ昼餉タウベタルニ、ケサヨリノウサワスレハテヌ。コノ家ニ仮リノ主トナリテキル人ハ万吉トイフ。コレ長右エ門ノ姪聟也。番頭ヲ久兵衛大肋トイフ。コヽヨリマタ荷物二箇ツクリテ下関新地佐藤良平ニアテヽ出ス。一箇ハ着物。

クロチリメン羽織　小紋同　小紋アハセ羽織　小紋アハセ　黒羽二重袷　サラサ綿入　襦半一枚　袴　書タルモノ少シ

一荷ニハ、茶碗其外。

コヽヲ立テ、舟ヨリ柳川ノカタヘワタル。筑後川ノミナトニテイトヒロシ。諸富ノ向ノ方、若津トノ間ニ中島アリ。中島ニハ人家ナシ。若津、遊女ナドモ居テ、コノワタリニテハ賑ハヘルミナト也。コヽヨリシバラク来テ、入川ノワタシヲワタリテ榎津ニ至ル。コヽモ賑ハヘル所ナリ。ソコヨリヤヽ来テ久留米・柳川ノ境アリ。コノ川〈「川」字に傍記〉〔チクゴ〕ヨリ海ニ下リテ新地トイフアリ。ソコハ柳川領ナリトゾ。チクゴ川ニテノウタ。

岩波も声ぞいかれるものゝふのかばねやこゝにミづきたるらん

いひつがん名のミとゞめて一よ川ゆくせのあわと消し君ハも

柳川城ニ入テ、上町ノ宰府ヤトイフニ着テ、西原氏ニオトヅレヌ。筑後川ノワタリ上リヨリコヽマデ一里半ナリ。ホドナク老翁、著述ノ書ドモタヅサヘテ出来レリ。甲斐原源吾・佐藤十左エ門ノ両人従ヘリ。佐藤ハ学校ノ句読師也トゾ。日ノクルヽマデ物カタラヒテ帰リツ。

四日。雨ヲリ々々雷ナル。当今ノ執政ハ立花織衛也。

立花壱岐
立花主計

立花内膳ハ三家也。コノ末子ニ大学ト云人アリ。コレ当主ニテ志アル人也。

昼飯ノ後、西原翁来訪。ソノ後甲斐原源吾・佐藤十左エ門ノ両人来レリ。アトヨリ岡直郎来ル。トモナヒテ池末〈「末」字に傍記〉〔マツ〕庄三郎ノ亭ニウツル。池辺藤右エ門マタ来ル。トモニカタラヒテ日クレヌ。

五日。曇。アルジカタヨリちまきヲ出セリ。ツクシノハテノ端午モカハルコトナシトオモフニツケテ、フル里イト恋シ。キノフ西原ニ聞シコトドモ、ヒトツフタツ書ツク。

サキノ有馬ノ少将殿、柳原ト云所ニ別館イトナマセ玉ハントセシニ、連年ノ災ニ民困メルニヨリテ、吉田織部ト云モノコレヲ諫ムレドモ、殿聞之テ曰、汝ワレヲ愛シテ諫ムルコト、豈コレヲ納ズテアルベケンヤ、タヾワレ別館ノ楽ノ外マタ老ヲ養フモノナシ、コレニ代ルニ何ヲカ以テセン。吉田織部曰、イカニモ何ゾ御楽シミナクテハ相叶ハザルコトナリ、鉢植ノ花卉ナドモテアソビ玉ハンニ、費モサノミカヽラデイトヨキ消閑ノワザナラント申上シカバ、マコトニ然ルベシ、但コレヲアツムルニイカバセントノタマフ。其人云、私ハヤクヨリコレヲ好ミテ二百体バカリハタクハヘ侍リ、コレヲ残ラズ君ニ奉ルベシト云。侯曰、コハイトウレシキコト也、乍併其方四千石ノ禄ニテ二百体ヲ持テリ、コレニ擬スレバ、ワレハ二十四万石ナレバ、数千体ナラデ

ハ叶ヒガタシトノ玉ヒシニ、コノ諫ヤブレニケリ。
マタ、善導寺ノ辺ヲ遊猟シテ鷹ヲトリ玉フヲ、和尚イタク歎キテ、寺ノ四至ハ御朱印地ニテ、ムカシヨリ漁猟禁制ノ所ニテ候、願ハクハ外ニテシ玉ベシト申シカバ、公曰ク、ワレ和尚ニ申聞ベシ、呼出セトノ玉フ。和尚御前ニ出ツ。公曰、汝ガ申所尤也、ワレ誤レリ、但鷹ハ畜生ユヱ、ソノ訳ヲ云聞ストモ分別ナクテ、此方ノ領内ニテ放鷹ストモ寺領ノ内ニ追落スマジキニモアラズ、仍之ソノ用心ニ寺領トコノ方ノ領トノ境ニ四方ニ垣ヲユヒメグラシテ、鷹ノエユカヌヤウニシテ猟ヲスベシ、然スルトキハ寺領ノ者一人モ垣外ニ出ルコトナルマジ、ソレハ合点ナルベシトノ玉ヒテ、ソノヨシ有司ニ仰セラル。和尚大ニ当惑シテ、ヤウ々々高良山ノ僧正ニタノミテ事済タリトゾ。
マタ、臼杵ノ家中某、遊学シテ柳川ニ来リ、止宿ヲ請フ。西原曰、久留米ニモ行玉フヤ。ソノ人云、タヾ佐賀ト御藩トヲ慕ヒテ来レリ、久留米ニハ恨ミアルユヱニソノ地ヲモ蹈ズトイフ。何故ノ恨ゾトトフニ、申モ恥ガマシキコトナガラ、寡君営中ニ於テ久留米侯ニ謁セラレシトキ、米侯曰ク、ソコ許ノ亭ニ遊ブベシ、但御隠居ノカタ物シヅカニテヨキ由ナレバソナタニマヰラン、何日然ルベシトノ玉フ。大広間ノ諸侯ノ仰ユヱ面目ニオボエ玉ヒテ、早速ソノ用意アリシニ、当日ニ至リ、御先供メカシキ者モ来ラズ、タヾ何トカイフ彎頭持ノ如キ者一人来レリ。サテ後ニ侯入ラセラレテ御酒興ニ乗ジ、芸妓ヲ呼ベシトノ玉フ。カノ彎頭持、館外ニ出テホドナク美人ヲ率ヒ来ル。名ヲおかんト云。侯大ニ愛シテ、酒ノ酔ニ乗ジ、おかん一人ヲ携ヘ楼上ニツレ行テコレヲ犯サントシ玉ヘドモ、夫アルヨシヲ申テ聞カズ。侯、サラバ夫ニ暇ヲトルベシ、ソノ夫ニ暇ヲトル料ニトテ、三百五十両ヲ玉フ。サテソノ女ヲ率テ国ニ下リ玉ヘリ。ソノ後、おかん、侍臣ノ小島鳥之介トイフ者ト姦シテ、侍臣ハ打首ノ筈ナリシヲ、御菩提所ノ和尚ノ命乞ニテ法師ニナレリトゾ。侯ノ言行カクノ如シ。
〇西原云、伊セ物語トイフ名義ハ、いせと尾張ノ海づらを来るにトイフ語ヨリ書出セリ。コレヨリ前ハタヾ何トナキ世ノ語リ事ヲカケルナリ。マタ、母なん藤原なりけりトサキニアルモ、女モ父モ業平ニ妻合セントスレド、母なん藤原ナレバ、系図ヲ云立テ、サル浪人者ニハ妻合セジト云。片鄙ニテモ藤原氏ノ高ブリタルサマヲカケルモノ也トイヘリ。
〇マタ、源氏須磨ニ、これよりまさるうき事云々トアルハ、源氏ノナホツレナクテオハシマサバ世ノ乱モ起ランノ意ニテ、自ラ世ヲサケ玉フ也、ソノ証ハ弁ノアマガ薫ノ大将ニイヘルコトニテシラルヽ、照応ヲミルベシ。
宿レル池末ガ家ハ南朝ノ和田ノ子孫ニテ、ソノ古書ドモモタリ。俳人野坡モコノ家ニ杖ヲ留メタルヨシ也。
良雄・良金ノ名ハ東満ガ付タリ。良雄ハ稲荷山ニ文庫ヲ開カントセシ議ニモ預リタルヨシ、中村景通イヘリ。仏庵トイフ。字ヲ弥太夫トイフ。
辛崎八百首ノウタ
わすれても君ますかたを枕にてあとにハなさぬミやこなりけり
〈小書〉〔カクノ如キコト蒙求ニアリ〕
高山（マヽ）ガウタ
ミな月のてる日もミゆきふれる日もひとつまとへる身にこそありけれ
林子平・蒲生秀実モ同ヤウ也。
横地義一郎、辞〈傍記〉〔カ〕令家也。ソノ弟恒之允来訪。
〈未完〉